

# ピソケタトリに 繰り広げられた 世界のスキー指導者たちの理論と技法

レポーター 志賀仁郎



最終日、フィナーレを飾ったISVメンバーによる合同デモンストレーション

世界中のスキー指導者が四年に一度、一堂に会するインタースキーの第一〇回会議は、一九七五年一月十九日から一週間、チェコスロバキアのピソケタトリで開かれた。一九五一年ツールスでの第一回会議を皮切りに、年を追って、回を重ねて第一〇回。インタースキーは量的に巨大化するとともに、質的にもコンGRESからフェストへと変わってきた。しかし今、スキーヤーの国際化、多様化をめぐって、インタースキーは新しい命題が求められている。第一〇回会議で胎動し始めたこの動きが、次の第一回会議で、どのように結実するだろうか――。

## マンモス化したインタースキー

インタースキーは、世界中のスキー指導者、スキー関係者が集まって、スキーの指導理論、スキーの技術といったものを比較し検討し合う国際会議である。この会議では、技術、指導法に関する発表、提案がその中心となるのは当然ながら、急激なスキーヤーの増加、スキー環境の変化にいかに対処するかといった問題もまた、重要なテーマとなっている。

スキー指導理論、方法の統一といったテーマがインタースキーの主要な議題となったのは、急速に変わりつつあるスキー環境の変化と、レクリエーション・スキーヤーの国際化の現象がその底にあるわけだが、第八回にその方向を定めたこの国際会議は、果たして、その目標を達成できるであろうか。この会議に寄せるスキー指導者たちが期待するところである。

第一〇回を迎えた、このインタースキーは、参加国三二カ国、巨大な会議に成長した。スポーツの国際会議としては、



異例の規模といわなければならない。遠い極東のスキー国日本からの一〇〇名を超す代表団の参加もまた、日本から参加するあらゆるスポーツの国際会議の常識をはるかに超えているといえるだろう。

世界中のスキーの可能な個々のすべてから参加を得たといってもいいこの国際会議は、その巨大化によって、その方向、

フリースタイル・スキーの登場、そして多くの看板の出現は、インタースキーのフェスティバル化と商業主義の浸透の証である。(ついにウェイン・ウォンもインタースキーに出場したのだ)



そして会議の内容を変質させてしまった。

それは、スキーの技術および指導理論の研究発表を中心に、各国の指導者、研究者の討論の場といった、かなりアカデミックなムードの国際会議から、世界中のスキー教師たちの四年に一度のフェスティバルといったムードへの変換である。コンGRESSからフェストへ、きびしい技術的な対立から楽しい交流へと、その方向は大きく変わったと見えるのである。

第一回ツールズ（オーストリア、アーベル地方）の会議以来、繰り返されてきた激しい対立、ローテーションか逆ひねりか、シュテムかパラレルかといった応酬は、今回のこの会議からは感じとれない。日本が参加したモンテ・ポンドーネ（第六回）バドガスタイン（第七回）そしてアスベン（第八回）と回を重ねるたびに、そういった激しい対立は、そのムードを和らげ、第八回アスベンにおいて、**「世界のスキーを一つに」**のテーマのもとに解消してしまったのである。そして第九回ガルミッシュ、今回のピソケタトリの両会場では、インタースキーはフェスティバルとしての面をさらに色濃くしているのである。

### 「新しい機能」への脱皮

このことは、スキーの世界ばかりでなく、あらゆるスポーツに共通する現象である。国際交流の盛況と、情報化の進行が、その流れを生み出したといっている。

レクリエーション・スキーヤーは今、その国境をほとんど意識していない。西ドイツのスキーヤーは、オーストリア、スイス、イタリアへ気軽にスキーに行く。オーストリアやスイスのスキー教師たち

は、アメリカやカナダのスキー場で働くことを苦にしない。そればかりか、かえって遠い外国でスキー教師をすることに、若い夢を持っているのである。

スイスで習ったらこういわれた、オーストリアに行ったらこう直されたということが、レクリエーション・スキーヤーを悩ませるといふ不満は、そのまま、スキー指導理論と方法の統一というインタースキーの主要テーマを支える大きな力となっている。

また、今日オーストリアのサンクリストフの斜面に試みられた技術が、明日はスイスのアンデルマツトで実験されるといった情報伝達方法の発達と、情報交換の密度の濃さが、このインタースキーの場で検討し合い討論し合う必要を消滅せしめたと見てもよいであろう。

さらに、この会議の組織・機能の変化が、この会議の変貌のもう一つの大きな力であったと見ることが出来る。それは、この会議が巨大化するきざしを見せはじめた第六回会議において提案され採択された職業的なスキー教師の部会、アマチュア部会の二つの部会、第七回バドガスタイン会議から機能しはじめた学校教育におけるスキー指導者の部会を加え、三つに分化した部会が、その活動を進める中で、インタースキーは大きくその性格を変えて行ったと思われる。

第一〇回大会以後は、この三つのスキー教師の立場による分類を超えて機能するであろう。用語の統一に関する専門部会と、指導理論の専門部会、スキー教師養成に関する研究部会が多くの成果を積み上げて、次のインタースキーに実のある報告書を提出するであろう。四年に一度

のスキー教師のお祭り、という面を色濃くしたインタースキーの奥では、恒常的な研究組織の成立がこの会議の存続の意義をさらに高めているのである。

### 正しい取り組みの姿勢を欠く？ SAJ

この会議に第六回以後、毎回、代表を送ってきた日本は、この会議への参加の中で世界への目を開き、国際交流の足がかりをつかんできた。しかし、日本のスキー関係者のこの会議の理解がかなり薄いのではないかという懸念をもたざるを得ない。

それは、このインタースキーを四年に一度の基礎スキーのオリンピックのよう

なもの、概論すればデモ選の国際版といった取り組み方が一部にあり、そしてそれは、この会議のデモに選ばれることが、若きスキー教師の夢となるという状況を生み出したのである。

この会議には三つの部会があるということをも日本のスキー関係者が認識したが、第八回であったと記憶するのだが、それからすでに一〇年、なお当時と全く同じ理解に立っているとしか思えないSAJの、このインタースキーへの取り組み方には、かなり大きな不安を感じるのである。

第一一回大会の日本招致に成功と、大喜びのスキー界だが、果たして、その重みに耐え得るだろうか。

## 世界各国のスキー技法と指導理論の現状

第一〇回インタースキーの特設スロップでは、一三カ国によるアルペン・デモンストレーション、四カ国のノルディック・デモンストレーションが行なわれ、それぞれの国のスキー教師らによって、世界各国のスキー技法、スキー指導理論の現状が紹介された。

### 評価されたウムシュタイクの

#### 指導体系上の位置づけ

インタースキーでは、各国ともシヨロ的な要素をその演技の中に取り入れて、スキー関係者の目をひきつけようといった意識が働いて、スキー教師の動きはかなりはなやかに見え、また目新しい技法

に大きな関心が集まることから、オーバーな演技が展開されるのだが、今回は、前回、前々回に比べると、地味なデモであったといっているであろう。前回のガルミッシュで見られた前衛技法、すなわちアバルマン的技法のオンパレードは後退し、より自然なスキーへとその傾向は安定してみえる。

しかしながら、各国のデモの中に、パラル、ウエーデルンから、より積極的なスキーへと、ステップ系技法が取り入れられている点が目につく。これは、レクリエーション・スキーヤーの技術が高まり、競技スキーへの目が開かれてきた世界的な傾向を反映していること





①  
オーストリアは、再び改訂したスキー  
教程を発表した。この新しい教程は、前  
教程とその構成はほぼ同じようなものと  
見ていいのだが、前教程の主張、曲げて  
回し、伸ばして回す、といった部分のオ  
ーバーな表現を抑えて、中間姿勢のより

## ● オーストリア



谷足シュテムのバラレル・ウムシュタイク・シュブク (オーストリア)

ができる。しかしながら、オーストリア  
の新しい教程の中に位置づけられたよう  
に、このスキーの交互操作の技法がスキ  
ー指導理論上、大きな効果を期待できる  
技術と評価されているのも、この会議に  
見られた新しい傾向なのである。  
シュテムからバラレルへ、交互操作から  
同時操作へと組み立てられていたかつて  
のオーストリア・スキーが、バラレル、  
ウエーデルンの上に、さらに新しい積極  
的な技法としてウムシュタイク・シュブ  
クをつけ加えたのではなく、バラレル、  
ウエーデルンと並立する技法として、横  
への拡がりの中に位置づけられたという  
点に、新しいオーストリア・スキー教程  
の見どころがあるのである。  
このウムシュタイク・シュブクの評  
価と指導体系上の位置づけと共に注目さ  
れるのは、イタリアや西ドイツの技法の  
中に現われた上体の先行動作であろう。  
こうした技法は、かつて、レクリエー  
ション・スキーヤーにとっては害のある  
取り除くべき欠陥と見られてきた技術要  
素であった。それが、競技スキーヤーの  
技法の分析の中から再び有効な技術と認  
められ得るかどうかという点に、新しい  
技術論争を生む可能性がある。

## ● フランス

フランスのデモもまたオーストリアと  
同じく、無理のない自然なフォームが採  
用されている。クリスチャニア・レジェ、  
ゴデューといったすでになじみ深い技  
法に加えて、中級者の指導の中に、ス  
キーを交互に平行に置き換えるバラレ



多様化が統一か？

今日に対処する指導理論の行方

この会議における指導理論上の共通の  
理解は、スキー指導の画一化をさげよう  
といった点にあった。それは、スキー教  
師の教える対象は、かなり広範な人々で  
あり、体力の優れた人・劣った人、一年  
に二〇日もスキーのできる人・わずか一  
度か二度スキー場に行く人、全く遊びで  
スキーをする一般のスキーヤーと、将来  
スキー選手あるいはスキー教師になろう  
と思っている人、と、教わるスキーヤー  
は多種多様であり、それらのすべてに適  
用し得るスキー指導理論はあり得ないと  
いう認識がその根底にある訳だが、それ  
はスキー指導理論の多様化を呼び、スキ  
ー指導理論の統一の方向とは矛盾するの  
ではなからうかといった意見もまた、当  
然生まれているのである。スキー教師に  
ある種のカテゴリーを設けようという考  
え方や、せめてグルンド・シュブクだ  
けは統一を、といった提案から、このイ  
ンタースキーの取り組む対象の大きさ、広  
さを、改めて確認させられるのである。  
各国のアルペン・デモの中から、いく  
つか目についた技術、指導方法といった  
ものを紹介してみよう。



# AUSTRIA



自然なものに帰り、スキーを交互に操作するウムシュタイク・シュブリンクが指導上、かなり大きなウエイトを占めるものとして紹介されている。  
 連続写真はパラレル・ウムシュタイク・シュブリンクで、平行に開き出した山側のスキーに荷重を移し交える動作が②③④に見られる。極めて自然なスキー操作といえるだろ

ル・ド・バースが重視されるという部分では、オーストリアの新しい主張とはほぼ同じ傾向を見せているのである。  
 そして、上級者の技法には、より積極的なステップ技法が、中級におけるパラレル・ド・バースの発展したものであるとして採用されている。  
 写真は、中級者の指導に採用される平行両開き、すなわちピラーージュ・パラレル・ド・バースで、大きな上下動と上体の先行が見られる。



# FRANCE



# SWITZERLAND



## イタリア

今回のインタースキーでもっとも人気のあったのは、イタリア・チームのデモンストレーションであった。整然としたチーム・プレーは、鍛え抜かれた見応えのあるもので、その理論とともに強い説得力を持っていた。

技術的には上体の先行動作（アンチペーシジョン）を積極的に取り入れている点である。この動作は、フランスのスキーにおけるプロジェクトジョン・シルキュレル（円形前投）とは若干違った意味合いを持っている。それは、アンチペーシジョンはターンの始動期に効果を発揮する動作であり、プロジェクトジョン・シルキュレルのようにターンをリードする部分で使われる技術要素ではないという

点にある。ジョルジュ・ジュベール氏の提唱した、ジェット・ピラージュの中に於ける前方へのプロジェクトジョンと呼ばれる技術要素に共通するものなのである。

こうした、かなり高度な技法と見られた技術要素が、一般のスキー教程の中に浸透するようになった背景には、一般スキーヤーの技術レベルの上昇と、スキーおよびスキー靴の著しい技術革新があるのだが、イタリアの教程が、上級者から競技選手へと直接結びつけて組み立てられている点もまた、見逃がすことではできないのである。

写真は、アンチペーシジョンの動作を見せるパラレル・クリスチャニア。

## スイス

スイスのスキー指導者は、つねに「安全」というテーマを念頭に置かなければならないという主張に基づいて、初心者には、いかに安全にスキーを楽しませ、教えるかといった指導法を展開してみせた。

デモの中には一九七二年までスイス・ナショナルチームの主要メンバーであった、ミッシェル・デトワイヤーの姿も見られ、この国のしつかり地についたスキー事情が、実に良く表現されていた。

写真は、そのデトワイヤーのオーバーなゼスチャーによる、初歩的なパラレル・クリスチャニア。

# 有名ブランドスキーウェア特別予約セール

期間:9月19日~9月26日 場所:新宿・伊勢丹新館6階スキーショップ

PHENIX Bogner *anba*  
*fusalp* LibertyBell vdev killy

同時開催  
 '76ニューモデル  
 スキー用品  
 パーゲンセール



新宿  
 伊勢丹

★分割払い ポーナス一括払いも御利用出来ます。





**ITALY**

**'76 New Model 続々入荷中**

- 特別早期予約割引受付中 → 分割・ボーナス払可
- 旧製品特安販売中 // 5割 ~ 4割引 → 分割・ボーナス払可

店内SKI用品いっぱい!!  
 しょうずにさがそう。



ハート(U.S.A.)  
 神奈川県販売代理店

☆ ウェアー □ オール半額  
 ☆ 大好評 □ セット5点(初級者用) **¥30,000**  
 スキープロショップ

**横浜アトスポーツ**

横浜市中区花咲町1-17(国電桜木町ソバ) ☎045(241)1418・5840

